

(3) 化学（医薬品を除く）

13/12 14/13
：天気図マーク： ◎ ○

◎ 伸び率 10%以上 ● 伸び率 0～▲10%
○ 伸び率 0～10% ● 伸び率 ▲10%以下

1. 企業経営動向（需要・生産・設備投資・企業収益・財務）

(1) 需要

①現状

汎用樹脂について13年度の状況を見ると、国内の出荷については景気の低迷による需要の減退、需要家の海外生産移転、製品輸入の増加などの影響を受け減少し、輸出も世界的な景気減退の中で秋口まで低調であった。また、ＩＴ関連製品についても世界的なＩＴ不況の影響を受け実需は大きく減少した。しかしながら、汎用品については13年度末から輸出が増加に転じ、国内出荷についても14年度に入って底打ちの感が見られつつある。ＩＴ関連製品については、受注が急激に回復している。

②今後の見通し

汎用品については一部に明るさが見え始めているが、内需の本格的な回復には時間を要し、当面は不透明な状況が続く見込み。輸出については、今後アジア域内外で複数の石油化学プラントが増設され、中長期的には減少が懸念される。ＩＴ関連製品については、足元の好調さがどこまで力強い動きになるか現時点では不透明。大型液晶パネル向け部材や次世代フォトレジストなどの新規分野は、引き続き拡大が見込まれる。

(2) 生産・設備稼働

汎用品については、景気の減退による内需の影響を受け稼働率は低水準で推移した。ＩＴ関連製品については、設備増強計画を進行中にＩＴ不況が来たため、年度後半は稼働率が大きく低下したものの、需要の回復とともに稼働率が回復してきた。

(3) 企業収益

①13年度の収益状況

主要化学企業をセグメント別に見ると、石油化学部門はアジア地域の競争激化等に伴う製品市況の悪化、期初における原料価格の高騰に伴う製品価格への転嫁が不十分であったことから、減収減益。機能性化学品部門も全般的なＩＴ不況の影響を受けて、減収減益。特に半導体関連材料の需要減退が著しかった。全体では、一部企業における大規模な連結対象の変化から増収となるが、この影響を除けば、減収減益。

特別損失の動向は、12年度には事業再構築（早期退職金等）や退職給付会計基準の変更に伴う差異の償却等を計上する企業が多かったが、13年度は、前年度に引き続き退職給付会計基準変更時差異の償却を進める一方、銀行を中心とした保有株式や子会社株式の減損処理（株価下落や子会社業績不振に対応）など、各企業毎の要因により損益にばらつきが見られたところ。

②今後の収益動向の見通し

石油化学製品の市況の改善・販売数量の回復や、半導体材料等のＩＴ関連製品需要の回復が期待され、一方で各社とも一層の事業体質の強化・合理化を図ることにより収益確保に努めることとしており、増収増益の見通し。

(4) 財務

全体的に有利子負債の圧縮方針をとる企業が多いが、有利子負債の削減が一段落した企業の一部に積極的な設備投資を行う企業もあり、全体をならして見れば有利子負債の水準は、前年とあまり変わらない水準で推移する見込み。

2. 設備投資動向（12年度実績、13年度実績見込、14年度計画）

（1）これまでの設備投資の推移

12年度は景気が緩やかに改善したことからの増加に転じたが、財務体質改善を意識した企業も多く増加幅は小幅に留まった。一方、13年度はIT不況と国内の景気低迷による需要環境の悪化等を懸念し、設備投資計画を縮小する企業が見受けられたものの、前年度の積極的な計画に基づき、IT関連等の新規分野への投資を積極的に行う企業も見受けられたことから大幅に増加した。

（2）平成14年度の設備投資計画（化学工業〔医薬品を除く〕108社ベース）

・14年度は有利子負債の圧縮方針から減価償却費の範囲内に収める企業が依然として多いものの、一部の企業でIT関連分野や石油化学分野における積極的な投資が見られることから、5,334億円（前年比+0.1%）と横這いに推移する見込み。

・目的別投資では、一部の分野における生産関連投資が多額となることから増加する見込み（13年度37.4%→14年度40.8%）。

・業種別投資では、石油化学部門が前年度に引き続き大幅に増加（13年度12.4%→14年度29.7%）することを除き、おおむね前年度を下回る見込み。

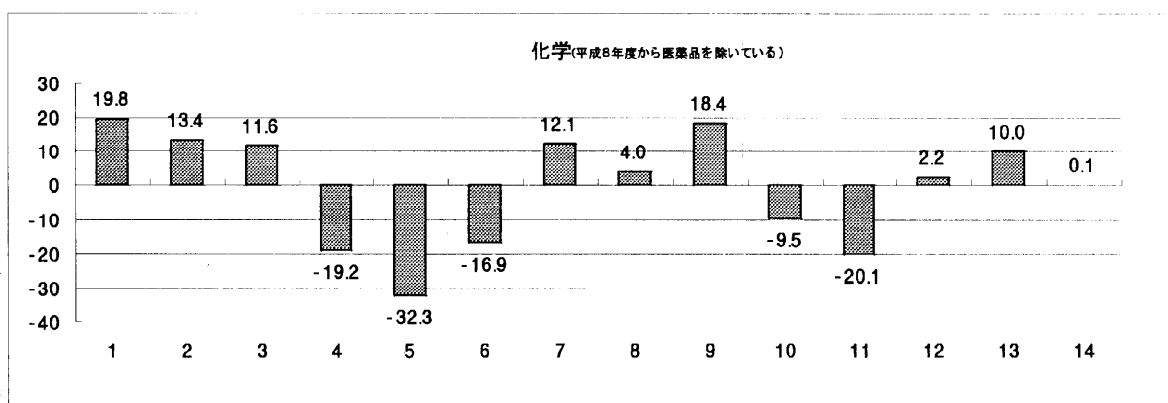
3. 長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

（1）長期資金運用動向

14年度における長期資金需要額は5,530億円（前年差+969億円）と増加するが、設備投資所要資金額の資金需要全体に占めるウェイトは82.6%と、前年度に比べて26.2ポイント減少する見込み。

（2）長期資金調達動向

長期資金調達の内訳は、自己資金（内部資金）が6,934億円（前年差+1,402億円）と増加することから、資金調達全体に占めるウェイトは前年度に比べて4.1ポイント上昇する見込み。一方、借入金は、引き続き有利子負債の圧縮傾向が見られるものの、一部企業における積極的な設備投資に伴う資金需要から、新規借入額が返済額を上回る見込み（13年度▲267億円→14年度+91億円）。



（設備投資の前年比推移(%)）

化学工業（医薬品を除く）の設備投資実績及び計画（工事ベース）

（単位：億円）

化学工業	12-13年度共通企業 [〓] - ₁ （113社）		13-14年度共通企業 [〓] - ₁ （108社）		前年度比	
	12年度実績 A	13年度 実績見込 B	13年度 実績見込 C	14年度計画 D	13年度 B/A	14年度 D/C
	5,155	5,671	5,327	5,334	10.0%	0.1%
石油化学	12-13年度共通企業 [〓] - ₁ （34社）		13-14年度共通企業 [〓] - ₁ （32社）		前年度比	
	12年度実績 A	13年度 実績見込 B	13年度 実績見込 C	14年度計画 D	13年度 B/A	14年度 D/C
	932	1,047	1,004	1,302	12.4%	29.7%
無機化学	12-13年度共通企業 [〓] - ₁ （29社）		13-14年度共通企業 [〓] - ₁ （28社）		前年度比	
	12年度実績 A	13年度 実績見込 B	13年度 実績見込 C	14年度計画 D	13年度 B/A	14年度 D/C
	831	932	867	899	12.1%	3.7%
有機化学	12-13年度共通企業 [〓] - ₁ （43社）		13-14年度共通企業 [〓] - ₁ （40社）		前年度比	
	12年度実績 A	13年度 実績見込 B	13年度 実績見込 C	14年度計画 D	13年度 B/A	14年度 D/C
	1,693	1,759	1,524	1,299	3.9%	▲14.8%
化学肥料	12-13年度共通企業 [〓] - ₁ （14社）		13-14年度共通企業 [〓] - ₁ （14社）		前年度比	
	12年度実績 A	13年度 実績見込 B	13年度 実績見込 C	14年度計画 D	13年度 B/A	14年度 D/C
	77	19	19	17	▲75.6%	▲11.3%
その他	12-13年度共通企業 [〓] - ₁ （30社）		13-14年度共通企業 [〓] - ₁ （30社）		前年度比	
	12年度実績 A	13年度 実績見込 B	13年度 実績見込 C	14年度計画 D	13年度 B/A	14年度 D/C
	1,622	1,914	1,914	1,818	18.0%	▲5.0%

注）複数部門に回答している企業があるため、化学工業の企業数と各部門の合計企業数は一致しない。

ゴ ム 製 造	12-13年度共通企業 [△] - _λ (16社)		13-14年度共通企業 [△] - _λ (14社)		前 年 度 比	
	12年度実績 A	13 年 度 実績見込 B	13 年 度 実績見込 C	14年度計画 D	13 年 度 B / A	14 年 度 D / C
	6 1 4	6 2 7	6 1 7	6 7 4	2.1%	9.3%
プ ラ ス チ ッ ク 製 品 製 造	12-13年度共通企業 [△] - _λ (32社)		13-14年度共通企業 [△] - _λ (35社)		前 年 度 比	
	12年度実績 A	13 年 度 実績見込 B	13 年 度 実績見込 C	14年度計画 D	13 年 度 B / A	14 年 度 D / C
	7 9 4	7 6 8	8 5 6	7 4 0	▲3.3%	▲13.6%